



サードパーティ ソフトウェアのインストール

この章では、ICM サードパーティ ツール CD からソフトウェアをインストールする方法を説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「サードパーティ ソフトウェアについて」 (P.2-2)
- 「サードパーティ ソフトウェアのインストール」 (P.2-6)
- 「サードパーティ ソフトウェアをインストールした後の作業」 (P.2-9)
- 「サードパーティ ソフトウェアの保守」 (P.2-9)
- 「サードパーティ ソフトウェアのアンインストール」 (P.2-10)

ICM Third-Party Tools CD からソフトウェアをインストールする前に、[第 1 章「WebView のインストールの準備」](#)を必ずお読みください。

第 1 章では、サードパーティ ソフトウェア CD をインストールする WebView サーバ マシンの要件および導入モデルのオプション（サードパーティ ソフトウェアを、ディストリビュータ アドミン ワークステーションにインストールするか、1 台または複数の WebView サーバにインストールするか）について説明しています。

サードパーティ ソフトウェアについて

ICM/IPCC の導入を管理する場合、ICM Third-Party Tools CD を受け取っているはずですが、この CD には、WebView レポーティングをサポートするために必要なアプリケーションが収録されています。

サードパーティ ツールは *WebView* サーバマシンにインストールします。

大規模カスタマー用の導入形態（WebView を 1 台または複数の別のマシンにインストールする形態）を使用する場合は、ディストリビュータ アドミン ワークステーションではなく、スタンドアロンの *WebView* サーバマシンだけにサードパーティ ツールをインストールします。



(注)

System IPCC Enterprise を導入して管理している場合は、DVD のサードパーティ インストーラが自動的に実行されます。サードパーティ ツールをインストールするために、特別な操作は必要ありません。

サードパーティ ソフトウェアのインストール順序

ICM Third-Party Tools CD のアプリケーションは、次のようにインストールする必要があります。

- *WebView* レポーティングをセットアップする各 *WebView* サーバ マシンにインストールする。
- ICM のセットアップを実行して *WebView* をインストールする前にインストールする。

サードパーティ ソフトウェアをインストールするための管理者権限

サードパーティ ソフトウェアをインストールするマシンをローカル管理者としてセットアップする権限を持つ、コンピュータの管理者としてログインする必要があります。

CD に収録されているアプリケーション

ICM サードパーティ ツール CD には次のアプリケーションが収録されています。

- Sun JDK バージョン 1.4.2
- New Atlanta ServletExec ISAPI バージョン 5.0.0.18
(このソフトウェアで、サーブレットと JSP ページが編集されます。)
- Sybase EA Server バージョン 5.1.0
(このソフトウェアには、レポートの生成とデータベースのクエリのロジックが格納されています。)



(注) Sybase EAServer は、Jaguar サーバまたは エンタープライズ アプリケーション サーバと呼ばれることもあります。

- PowerBuilder Virtual Machine バージョン 10.x.

このアプリケーションは、レポートिंगを使用するユーザからは見えません。ただし、サードパーティ ソフトウェアをインストールした後に、[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] に表示されます。

これらのサードパーティ ソフトウェアのバージョンは、このマニュアルの執筆時のものであることに注意してください。

サードパーティ ソフトウェアのバージョンの最新情報と詳細については、『Cisco ICM Software Release 7.0(0) Bill of Materials』(BOM) を参照してください。

Sybase InfoMaker ソフトウェアについて

Sybase InfoMaker という別のサードパーティ アプリケーションを使用すれば、WebView レポートングのカスタム テンプレートの作成と変更を行えます。ICM サードパーティ ツール CD で提供されるソフトウェアとは異なり、InfoMaker はオプションで別途購入が必要になります。このアプリケーションは、WebView サーバまたはディストリビュータ アドミンワークステーションのマシンにはインストールできません。

■ サードパーティ ソフトウェアについて

InfoMaker をインストールする前に、『*Template Design Guide Using InfoMaker for Cisco ICM/IPCC Enterprise & Hosted Editions*』に説明されている InfoMaker のインストールの手順を参照してください。

このセクションでは、サードパーティ ソフトウェアのインストールを始める前に行う、次の最終チェック項目について説明します。

適切なディスク領域と RAM 容量の確認

サードパーティ ソフトウェアをインストールするドライブに、十分な領域があることを確認してください。インストーラ ソフトウェアは、実行時に約 10 MB の RAM と 1 MB のハード ドライブ領域を使用します。

インストール中に空きディスク領域がなくなった場合、インストール処理を終了して、空き領域のさらに大きなドライブでインストールを最初からもう一度行う必要があります。

- Sun JDK には 60 MB が必要です。デフォルトでは、c:\jdk1.4.2_04 にインストールされます。
- New Atlanta Servlet Exec ISAPI には 15 MB が必要です。デフォルトでは、C:\Program Files\New Atlanta\ServletExec\ISAPI にインストールされます。
- Sybase EAServer には 450 MB が必要です。デフォルトでは、C:\Program Files\Sybase\EAServer にインストールされます。

EAServer をインストールするドライブに関わりなく、EAServer をインストールするには TEMP 環境変数が設定される必要があります。TEMP ディレクトリが作成されるドライブには、最低 300 MB の空き領域が必要です。さらに、このインストールには、C:\ ドライブに 500 MB の作業領域が必要です。インストールが終了すると、この領域は不要になります。

旧バージョンの Jaguar ソフトウェアの削除

一部の旧バージョンの Jaguar からのアップグレードはできません。サードパーティ ツールをインストールするマシンに、そのようなソフトウェアがインストールされている場合は、サードパーティ ツールのセットアップを実行する前に、そのソフトウェアを手動で削除する必要があります。

-
- ステップ 1** Cisco WebView のサードパーティ ソフトウェアのインストールを実行するマシンに Jaguar 3.5 または Jaguar 3.6.1 がインストールされているかどうかを調べます。
- ステップ 2** それらのソフトウェアのいずれかがインストールされている場合は、「古いバージョンの EAServer/Jaguar の削除」(P.10-13) の手順に従ってソフトウェアを手動で削除してください。
-

New Atlanta Servlet Exec があるかどうかを調べます。

サードパーティ ソフトウェアは、New Atlanta ServletExec の特定の設定に依存する他のアプリケーションと同じマシンにはインストールできません。

サードパーティ ソフトウェアのインストールでは、New Atlanta Servlet Exec がインストールされるだけで設定はされません。WebView の ICM のセットアップで、New Atlanta の設定が WebView とともに動作するように変更されます。

New Atlanta Servlet Exec に依存する別のアプリケーションがマシンにすでにインストールされている場合は、WebView とマシンを共用すると信頼性に問題が生じます。特に、ICM WebView は、New Atlanta ServletExec に固有の設定が必要な Cisco E-Mail Manager Option または Cisco Web Collaboration Option とは共存できません。

Cisco Security Agent の一時停止

-
- ステップ 1** Cisco Security Agent がマシンで実行中かどうかを確認します。
- ステップ 2** Cisco Security Agent (CSA) を使用している場合は、CSA のサービスを中断してからサードパーティ ソフトウェアのセットアップを実行してください。

Cisco Security Agent の詳細については、『Cisco Security Agent Installation Guide for Cisco ICM/IPCC Enterprise & Hosted Editions』を参照してください。

サードパーティ ソフトウェアのインストール

サードパーティ ソフトウェアのインストールには、マシンの速度およびマシン上で利用可能なリソースに応じて、30～50分かかる場合があります。

インストール手順の概要を次に示します。詳細は、ICM サードパーティ ツール CD の README.txt ファイルを参照してください。

ステップ 1 ICM サードパーティ ツール CD を挿入して、最上位の階層にある Setup.exe プログラムを実行します。

ステップ 2 [Welcome] 画面で [Next] をクリックして、続いて表示される画面の指示に従います。

セットアッププログラムにより、WebView に必要なサードパーティ ソフトウェアの一覧がダイアログ ボックスに表示されます。

- このダイアログボックスでは、システムにまだインストールされていないソフトウェアすべてに自動的にチェックマークが付いて (インストール用に選択されて)、グレー表示されます。
- CD と同じバージョンのソフトウェアがシステムにすでにインストールされている場合、そのソフトウェアにはチェックマークが付きません (インストール用には選択されません)。

ソフトウェアがすでにシステムにインストールされており、ソフトウェアのバージョン番号が変更されていない場合は、セットアッププログラムによるソフトウェアの再インストールは行われません。

ステップ 3 自動的に選択されたソフトウェア オプションを確認します。



(注)

選択されていないオプションを再インストールする必要がある場合は、処理をキャンセルして、サードパーティ ソフトウェアのインストールを続ける前に、それらのオプションを手動でアンインストールする必要があります。ソフトウェアの「上書き」インストールはしないでください。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 ファイルのインストール先を選択するように求めるメッセージが表示されたら、ディレクトリの場所を選択または入力します。新規インストール時のデフォルトのインストール先は、次のとおりです。

- Sun JDK :
C:\j2sdk1.4.2_04
- New Atlanta Servlet Exec :
C:\Program Files\New Atlanta\ServletExec\ISAPI
- Sybase EAServer :
C:\Program Files\Sybase\EAServer



(注) Cisco Security Agent を使用する場合は、サーバにソフトウェアをインストールする際に、必ずデフォルトディレクトリを使用する必要があります。オプションが使用可能な場合、デフォルトのディスク ドライブは (C:\ から D:\ などへ) 変更できますが、ディレクトリはデフォルトを使用する必要があります。そうしないと、CSA によってそのソフトウェアの実行が禁止されます。

ステップ 6 [Next] をクリックして、インストールを開始します。

インストール中には、ステータス メッセージが表示されます。

ある時点で、未指定パラメータに対してインストール時に選択されたデフォルトを示す警告がコンソールのコマンドライン ウィンドウに表示される場合があります。

これらのメッセージは EAServer のインストールによって生成されるもので、正常なメッセージです。

ステップ 7 インストールが完了すると、コンピュータの再起動を今行うか後で行うかを問い合わせるメッセージが表示されます。

どちらかを選択した後、[Finish] をクリックします。

■ サードパーティ ソフトウェアのインストール

ステップ 8 サーバを再起動します。



(注) WebView をインストールする前に、再起動する必要があります。

コンピュータの再起動後、サードパーティ ソフトウェアのインストールが完了します。

サードパーティ ソフトウェアのインストール ログ

サードパーティ インストーラによって、インストールの進捗状況を示すログファイルが作成されます。

このファイルには、重要な情報（現在のインストーラのビルド番号、プログラム実行の各段階、ユーザに対して表示する必要のない小さなエラー、システム設定など）が含まれているので、問題の診断作業を行う際に便利です。

ログ ファイル内の各エントリには、タイム スタンプが含まれます。

このログ ファイルは、c:\Temp ディレクトリに作成されます。ファイル名は WVThirdPartyInstaller.log です。

個々のサードパーティ アプリケーションでもログが生成されます。これらのログの詳細については、「ログ」(P.10-4) を参照してください。

サードパーティ ソフトウェアをインストールした後の作業

サードパーティのインストールを完了してコンピュータを再起動したら、ICM のセットアップユーティリティから **WebView** をインストールできるようになります。

この作業の手順については、[第3章「WebView のインストール」](#)を参照してください。

サードパーティ ソフトウェアの保守

サードパーティ ソフトウェアの保守と管理の詳細については、このガイドの以降の章を参照してください。

Jaguar の詳細については、[第5章「Jaguar Administration および Jaguar Watchdog」](#)を参照してください。

[第10章「トラブルシューティングのヒント」](#)にも、サードパーティ ソフトウェアを管理するためのヒントが多数説明されています。

たとえば、5 個以上のプロセッサが搭載されたサーバに **New Atlanta** をインストールする場合の説明については、「[サードパーティ ソフトウェアのライセンス](#)」(P.10-14) を参照してください。

サードパーティ ソフトウェアのアンインストール

このセクションでは、サードパーティ アプリケーションをアンインストールして削除する方法について説明します。

サードパーティ アプリケーションにはシスコ製のアンインストーラはありません。

ほとんどのサードパーティ アプリケーションは、Windows の [プログラムの追加と削除] を使用してアンインストールできます。Jaguar は手動で削除する必要があります。

ステップ 1 System IPCC Enterprise を導入していない場合は、この手順を省略して手順 2 から始めてください。

System IPCC Enterprise を導入して管理している場合は、一時ディレクトリを作成して、次のファイルをそのディレクトリにコピーします。

- 次のディレクトリ ツリーを作成します。

```
C:\Program Files\Sybase\EAServer\html\classes\webview
C:\Program Files\Sybase\EAServer\html\classes\com\cisco
C:\Program Files\Sybase\EAServer\Respository\Component\Webview
C:\Program Files\New Atlanta\ServletExec ISAPI\ServletExec Data
C:\Program Files\New Atlanta\ServletExec ISAPI\Servlets
C:\Program Files\New Atlanta\ServletExec ISAPI\webapps
```

- 次のファイルをコピーします。

```
c:\Program Files\Sybase\EAServer\Respository\Jaguar.props
c:\Program Files\Sybase\EAServer\Respository\Package\webview.props
```

ステップ 2 次の操作を行ってサービスを停止します。

- a. [スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [サービス] の順にクリックします。
- b. 次の各サービスを右クリックして、[停止] を選択します。
 - Jaguar
 - Jaguar Watchdog
 - IIS Admin Services

ステップ 3 次のようにサードパーティ ツールをアンインストールして削除します。

- a. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] の順にクリックします。
- b. 次のプログラムを選択して、[削除] をクリックします。
 - Java 2 SDK, SE v. 1.4.2_04
 - Servlet Exec 5.0 ISAPI
 - Sybase PBVM 10.x



(注)

オペレーティング システムのすべてのプロンプトに応答します。再起動を求めるプロンプトが表示されれば、それにも応答します。再起動する必要がある場合は、手順 2 を繰り返してサービスを停止してください。

ステップ 4 EAServer/Jaguar を次のように手動で削除します。

- a. [スタート] > [プログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] の順にクリックして、C:\Program Files\Sybase\EAServer\bin ディレクトリに移動します。
- b. `serverstart.bat -remove` と入力して、Jaguar サービスを削除します。
- c. [コマンドプロンプト] を閉じます。
- d. Windows エクスプローラで、C:\Program Files と C:\Documents and Settings にある Sybase フォルダを検索します。これらのディレクトリにあるすべての Sybase フォルダを削除します。
- e. Regedit を実行して、HKEY_LOCAL_MACHINE\Software にある Sybase というキーを削除します。
- f. 次のようにして環境変数を削除します。
 - [マイ コンピュータ] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
 - [詳細設定] タブで、[環境変数] をクリックします。
 - [システム環境変数] セクションで、JAGUAR と JAGUAR_CLIENT_ROOT という変数を見つけて削除します。
 - また、[システム環境変数] セクションで、PATH と CLASSPATH を編集して Sybase フォルダへの参照情報を削除します。

System IPCC Enterprise を導入していない場合は、次の方法で再インストールします。

- 2-6 ページ に説明されている手順で、サードパーティ CD からサードパーティ ソフトウェアを再インストールします。
- ICM のセットアップを [Upgrade All] モードで実行します。

System IPCC Enterprise を管理している場合は、次の方法で再インストールします。

- Cisco Security Agent を停止します。
- System IPCC DVD からサードパーティ ソフトウェアを再インストールします。インストーラは次の場所にあります。
Support Files\ThirdPartyInstallers\WebviewThirdParty
- 手順 1 で移動したディレクトリとファイルを元の場所にコピーします。
- System IPCC Enterprise をインストールしたドライブで、icm\bin\ に移動します。
 - IPCCADinitializer.exe を実行します。
 - wvconfig.bat を実行します。

Jaguar Admin パスワードを変更していない場合は、これで再インストールが完了します。

- サードパーティ ツールを再インストールする前に Jaguar Admin パスワードを変更した場合にだけ、EAServer Manager を使用してパスワードをリセットしてください。([スタート] > [プログラム] > [Sybase] > [EAServer 5.1.0] > [EAServer Manager] の順に選択します。)

詳細については、「[Jaguar Admin パスワードの変更](#)」(P.5-2) を参照してください。